

平成 29 年度サービス第三者評価（公益社団法人 全国有料老人ホーム協会）

法人名	株式会社日本ケアリンク		ホーム名	せらび恵比寿		ID	2931	
	評価機関	株式会社 ケアシステムズ				評価日	2018/1/8	
スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.3	A	A	6.1.2	A	A
1.1.2	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.3	B	B	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A
1.1.4	B	B	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A
1.2.1	A	A	2.3.7	C	C	6.2.3	A	A
1.2.2	A	A	2.3.8	A	A	6.2.4	C	C
1.2.3	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	A	A
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	A	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	B	B
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	A	A
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	B	B	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	B	B	7.3.1	B	B
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	A	A
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	B	B	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	B	B
2.2.10	A	A	5.2.3	B	B	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	B	B	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A

評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
1-1-1	基本方針や取り組み姿勢については、パンフレットに大き目の文字や写真などによって分かりやすく伝えるとともに、毎月定例の全体会議において確認し職員への周知に努めている。施設では、心身状況が重度の利用者から自立生活が可能な利用者まで幅広い受け入れに取り組んでおり、施設が掲げている基本方針や取り組み姿勢が適切に具現化されていることが確認できている。また、施設長は同施設において4年間の実務経験を経た後に就任して現在に至っており、経験に基づいて率先垂範して指示指導に取り組んでいることがうかがえた。
2-1-1	施設は住宅街に立地していることを踏まえ、特に町内会との連携を深めることで、地域社会との共存共栄に取り組んでいる。インターネットをはじめ、町内の掲示板やポスティングなど手法を用いて施設のイベント情報を伝えて参加を促したり、地域住民を対象に「認知症の研修会」や「介護保険の説明会」などを開催したりして施設の専門性を地域に還元し運営理念の周知に取り組んでいる。
2-1-1	当施設は34室という小規模ということもあり、アットホームで親しみやすい施設である。各階にリビングがあり、まるで我が家の居間のような雰囲気をかもしだしている。このスペースは自由に利用でき、落ち着いて過ごすことができる。4階のダイニングは当施設の中で一番広いスペースで入居者の70%の方がここで食事を取り、午後からは家族と共に過ごしたりと自由に使用することができている。また、生活相談員が中心となって入居者と共に作成した手づくりの作品がところどころに掲示されており、品よく暖かい雰囲気づくり、環境づくりに努めている。
4-2-2	各種アクティビティが用意されているが、その中でも特に音楽療法には力を入れている。週1回、定期的に開催され専属の音楽療法士が実施している。曲のリクエストはもちろん、「ピアノを弾きたい」「歌を教えて」などの要望にも出来る限り応えている。グループセッションに参加できない入居者には居室へ訪問し、その方に合わせた活動形態で行っている。音楽療法は個別ケアプランにのせて音楽療法士が評価し、音楽を通して入居者の生活を支えている。
◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
2-4-3	介護事故などを未然に防ぐ取り組みとして、安全対策委員会を定期的で開催したり、リスクマネジメントに関わる研修に職員を参加させたりして、注意喚起を促している。また、介護事故が発生した際には報告書を作成して振り返り、対策を講じる仕組みも整っている。さらに、職員の気づきを共有し事故を防ぐ取り組みとして、ヒヤリハット報告書も用意されているが、事故報告書の提出割合と比較すると提出件数が少ないことが懸念される。職員の気づきを促し、さらに安全性の高い施設運営を目指されたい。
2-3-6	施設では年2回運営懇談会を開催しており、法人本部の責任者も出席し、経営状況などの重要な案件を伝えるとともに、意向や要望を把握し改善につなげる流れが定着している。今般の法人経営権の譲渡に関する説明についても12月度に開催された運営懇談会で説明し、家族に理解を求めている。ただし、議事録の記載事項からは、さらに詳しい説明を求める声が複数聞かれており、1月度に再度開催することが確認されている。経営に関する重要な案件を伝える際には、利用者や家族の立場に立った説明がなされることを検討されたい。
6-3-2	自立度の高い入居者は少なく、多くの入居者が認知症状等があり援助を必要としている。認知症ケアについての職員研修はおこなわれているが、今後重度化が予測され看取りまで取り組んでいく施設としては、認知症の入居者の行動への対応や気持ちに寄り添うケアについて専門性が問われてくると思われる。今後、職員のさらなる認知症ケアについての考え方の確立と対応のレベルアップが望まれる。
7-6-3	入居者の服薬支援は業務手順をマニュアルに定めた上でおこなわれている。入居者個別に服薬方法チェック表を用いてダブルチェックをし、服薬時にはトリプルチェックをおこなっている。しかしながら、事故報告書には落薬が一番多く、同じことを繰り返している。事故報告書とヒヤリハットを全般的にみると、ヒヤリハットの報告書が事故報告書に比べて圧倒的に少ない。月1回、リスク委員会で件数、事例、対策を紹介しているが、今後さらなるリスクマネジメントに対する職員の意識向上を図ることが望まれる。